

平成 28 年度第 1 回唐津市行政改革推進会議 会議概要

(平成 28 年 10 月 28 日開催)

1 会議での主な意見・提案等

(1) 平成 28 年度行政評価（1 次評価）の結果報告について

- ・行政評価を実施し、その結果が健全な財政運営に結びつかなければならないが、その関連性が市民には見えにくい。
- ・評価結果の「見える化」などの取り組みも実施しているため、市民にももっと関心をもってもらい、意見をいただけるような工夫をされたい。
- ・それぞれの単位施策について、課題はよく整理されているが、その課題を踏まえた今後の対応の部分が不十分である。
- ・行政評価は、数値目標の達成度向上だけでなく、継続的な改善を図っていくことこそが目的であるため、評価の際はその点に十分留意されたい。

(2) 平成 28 年度行政評価（2 次評価）の実施について

① 中小企業の活性化（商ブランド課）

- ・金融機関や商工会議所もあるが、敷居が高いと感じる経営者もいるため、まずは市役所が総合的な窓口となり、様々な相談者に対するフォローができるような仕組みがあればよい。
- ・空き店舗への出店を促すには、効果的な情報発信が必要。唐津で何かやってみたいという気を起こさせないといけない。
- ・以前と違い、金融機関も地方創生に軸足を置き、ある程度のリスクをとるような姿勢になっているため、市と連携・協力することで良いアイデアも生まれると思う。
- ・新規創業者が気軽に参加できるような経営塾のようなものがあればよい。

② 地域子育て支援の充実（子育て支援課）

- ・放課後児童クラブの設置場所（施設）は確保できているため、今後は内容の充実が求められる。社協など関係団体と連携し、内容の充実と効率的な運営を図ってほしい。
- ・子育て支援センターでも、緊急サポートなど様々な取り組みをされているため、子育て世帯の負担軽減のためにも、もっと活用してもらえるように周知すべき。

③ おもてなしの充実による受入体制の強化と唐津の宝を活かしたニューツーリズムによる観光満足度アップ（観光課）

- ・唐津では外国語のサイン表示が充実しているが、一方では買い物や食事をするお店で外国語が通じないという声も聞く。また、クレジットカードを使えるお店が少ないために、福岡など唐津以外の地域で消費せざるを得ない。今後は外国人旅行者を受け入れるお店側の対応も充実させていくとよいのではないかと。
- ・外国人旅行者には「食」への配慮も必要。
- ・特定の施策を実施することで達成される効果を目標値に設定できると、事業効果がより明確になる。

④ CSOの自立的な活動基盤の強化（地域づくり課）

- ・ 交付金を交付するだけでなく、地域住民にも制度の趣旨・内容を広く周知し、市民協働の意識が隅々まで行き届くよう、市民向けの研修会等を実施してはどうか。
- ・ 異業種交流の場にもなっている「プロボノ」を活用することで、市民協働の意識が高まり、地域づくりにつながる。

2 今後の対応

- ・ 行政評価1次評価の結果は、市民に分かりやすいように工夫し、市のホームページで公表するとともに、庁内への通知を行う。
- ・ 行政評価2次評価（ヒアリング）の結果は、関係課へ通知するとともに、今後の施策推進のための参考意見とする。（来年度の予算や組織編成に活用する）